

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400331		
法人名	有限会社 エフヴェール		
事業所名	グループホーム エフヴェール		
所在地	吾川郡いの町天王北4丁目8-7		
自己評価作成日	平成23年4月18日	評価結果 市町村受理日	平成23年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は住宅地の中にあり、地域にとけ込んだ静かなたずまいの普通の民家を改装した家庭的な雰囲気のグループホームです。介護者は比較的年代層が高く、それなりに生活暦も長く柔軟な対応ができてまさにアットホームなグループホームです。利用者さんはゆったりとした時間の中で、思い思いの過ごし方をされています。外部からの支援(ボランティア活動など)も活発で毎月様々な行事を行なっています。毎月全員で外出に出かけたり、季節の催しごとに参加したり、他のグループホームとの交流や地域の集まりにも参加したりと外出の機会も多く、楽しみも多い事業所です。何よりも自分らしさを大切に、そして 出来ることを増やして、地域にとけ込み、住み慣れた町で暮らしていくことを大前提としています。又、待機されているご家族の介護相談や精神的フォローもさせて頂いています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3972400331&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年5月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家を増改築した、家庭的な雰囲気を感じさせる親しみのある事業所である。2階への階段には両側に手すりを取り付け、普段の生活の中でのリハビリに活用している。事業所は、月3回地域のコミュニティーセンターへ出かけて体操や茶話会に参加するだけでなく、地域の一員として公園の清掃活動や地域の行事にも参加し、事業所と地域、利用者と地域住民とのコミュニケーションを深めるように努めている。また、近隣住民の事業所への招待、ボランティア活動の受け入れ、他のグループホームとの交流なども積極的に行っている。利用者が安心して暮らせるように、事業所に保健師や看護師を配置し、毎月実施している全員参加の外出や季節ごとの外出も利用者により好評である。代表者自らも夜勤を行うなど、利用者だけでなく職員への配慮も行き届いた、自立支援によるサービスの質の向上を目指している事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で安心して暮らし続けることを基本とし、その人らしい生活に維持向上ができるように職員一同支援体制を作っている。又職員会では毎回理念を共有できるよう唱和している	利用者が地域及び職員と「共にある」ことを認識し、安心してその人らしい生活ができるように支援していこうとする理念をつくり、毎月の職員会で話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のコミュニケーションセンターに体操や合唱等また老人会の茶話会に行き交流している。夏祭りなど地域の行事への参加や公園の草引きやゴミ拾いなど地域の一員として定期的に参加している	町内会に加入して公園の清掃や夏祭りの行事などに出向き、また、地域のコミュニティーセンターでの体操や老人会の茶話会などにも参加するなど、日常的に地域との交流を行っている。ボランティアの訪問時には地域の方々にも声をかけ交流を深めるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの訪問時には近所の高齢者さんや、近くのホームの入居者さんに声がけしお誘いしている。散歩の折には、さりげない清掃作業なども心がけ、地域の高齢者家族の介護相談も受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族や利用者も参加して今の課題や行事報告、評価結果などの報告などについての意見をいただいている。又町内会の方の参加もあり、率直な意見など頂き、包括支援センターの方にも意見を頂きながらサービスの質の向上につとめている	運営推進会議では、事業所から評価結果や事業所の取り組み状況等を報告し、参加者からも率直な意見や前向きな提案などが出されるなど、運営に活かす取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方には日ごろから何かと連絡、相談をしながら、事業所の取り組みや方針など伝えたり、その結果を放告したりと情報提供や、できることの協力など積極的に行っている	日頃から町に対しては、事業所の取り組みに関する相談をしたり、町主催の研修会に参加するなど積極的に働き掛けており、一方、町からも事業所に対して事例発表の依頼があるなど良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が「身体拘束をしないケアについて」の研修に参加するなどして正しく理解している。又、事業所独自の「身体拘束廃止に向けた事業所の理念」を作成し、職員会などで常に理解を深めている	年1回外部研修に参加し、その結果について内部伝達研修を行うなど、身体拘束の弊害について職員が共通認識を持つように努めるとともに、一人ひとりに予測されるリスクについても家族と話し合い、理解を深めるように取り組んでいる。外出傾向のある利用者の傾向は把握しており、安全面に気を配りながら見守る一方、万一の場合に派出所や地域の人の協力も得られるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会などで、事業所内での虐待(言葉遣いやちょっとした行為など)が虐待に繋がっていないかどうか常に話し合い、見過ごされることがない様防止に努めている。何よりも利用者との信頼関係に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度については特に必要性はないが、外部研修などで学んだことを他の職員にも伝達研修をするように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定などの際は、その都度口頭で説明し、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解をいただき署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所運営に関しては利用者の日々の状態や、過ごし方などを知っていただく為の方法として希望があれば記録その他を開示する旨のお知らせを居間に貼付している。苦情箱も設置し、家族会や敬老会等にはご家族のご意見などもお聞きしたり、普段にもご家族の希望、相談などには応じてその内容は記録に残している。	家族会は年2回昼食会を兼ねて開催し、ほぼ半数の家族が出席している。ゲームをしたりコーヒーやお茶を楽しむなど、和やかな雰囲気の中で家族同士が気軽に話せるように工夫している。出された希望や意見については職員会等で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会を開催し、代表者や管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。又いつでも職員は代表や管理者に対して意見を言える体制(状況)である。	代表者は、自ら夜勤をするなど仕事に対する理解度が高く、毎月の職員会や日々の業務の中で職員の意見や提案を聞ける環境を整えており、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況をよく把握している。又、職員一人ひとりの思いや希望なども聞き入れ、できる限り働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。休みの希望などもほぼ100%かなえている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に関しては職員全員に研修情報を流し研修を受ける機会やトレーニングしていく事を進めている。毎月誰かは研修を受けて、研修報告書の提出や職員会で発表してもらっている。（職員の研修はすべて勤務時間として捉えている）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コミュニティーセンターに出かけたり、地域のグループホームの勉強会で交流したり他事業所の様々な行事に訪問、参加したりして活動を通じて 自事業所のサービスの質の向上につなげている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者(家族の方)に見学に来てもらうときでも安心して見学できるように、入居者のおやつ時間帯などに合わせ、交流の場として利用してもらったり、他の入居者との会話等で意外と本音が聞かれる事もあったりして何度か来所してもらったりして関係性を深めて安心を確保している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当っては、事前にかなり深くご家族とお話を聞きご家族の希望や不安に思っていることなどを詳細に話し合い信頼関係を構築し安心感を持ってもらえるように接している 又予約待ちのご家族とも連絡を密にし情報の提供や精神的なフォローも心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた内容により、必要な手続き(生活保護など)も代行させていただく用意もあり、包括支援センターなどに相談する事も可能な限り、その方の必要とするサービスを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のながれの中では、一緒に洗濯物をたたんだり、食事の下ごしらえや庭で花の世話をしたり一緒にテレビを見たりと暮らしを共にする中で、十分な会話と聞き取りなどお互いの信頼関係を築き、安心して本音で話せるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折には、ご家族の方ともよく話し、本人への思いや悩みなどもお聞きし、共に考え、できる限りの提案やアドバイスなども伝え、共同して支えている関係を築いている。又本人と家族とのかかわりを重視し、受診時の同行や、必要に応じて外出の機会も、もって貰っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時には馴染みの人や近所の方など来所されていたが、次第にあまり来られなくなってきてても外出の機会には、住んでいた環境に近い場所であったり、季節ごとには外出し、景観を眺めたり、スーパー等にいったりして生活面の思い出の場所の設定の支援は続けている。	地元の喫茶店や量販店に出かけた時に友人や知人と会って話をするにより馴染みの関係が途切れないようにするとともに、地域のコミュニティセンターの行事等にも参加して地域との関係が継続するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、仲良しの入居者や又仲間に入れない入居者同士の接点など見つけうまく関わられるような場面に努めている。現在は、全員孤立する事無く仲良く生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方には必要な情報提供を相手側に伝え、入院された方にもお見舞いにはもちろん必要に応じて情報提供したり、アドバイスなどもさせていただき、これまでの関係性を断つ事無く相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、家族やご本人に十分な基本情報を聞き取り、希望や意向に添うべく努めている。又、入居後に築く入居者との信頼関係の中で、馴染みの関係を築き、本人の望む生活や暮らし方を把握するように努めている。	入居時に利用者、家族から趣味や得意な分野を聞き取り、一人ひとりの思いや希望等を把握している。また、日々の生活の中でも、利用者ができるだけ自分の意思で答えられるよう話しかけ方を工夫するなど、一人ひとりの思いや意向をくみ取れるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症介護においては生活歴、生活環境、などの把握はきわめて重要であると認識し、本人や家族から詳細に聴取するよう努めているが、困難な場合は入居後の馴染みの関係を作る過程において、徐々に把握していくように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日々の状況はケース記録に記載し、問題点や、新たな課題が出てきたときは、それらの点について検討し、その人らしさを大切に、できることを見つけ維持向上の為の支援に努め、その日その日の入居者にあつた対応を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて担当者会を開き、職員それぞれの感じた部分や課題について検討している。又家族の要望、そのときの状態の変化のあつたときには計画の見直しであったり、看護師の意見や主治医の意見も取り入れ、臨機応変に現状に即した計画を作成している。	毎月1回職員会でモニタリングを行うとともに、必要に応じて担当者会議も開き、関係者と話し合つて介護計画を作成している。また、設定した期間での見直しのほか、状態の変化のあつた時は看護師、主治医の意見も取り入れ、現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況の変化や、日々の気づきなどケース記録や、介護支援経過を作成、記録し職員間で情報を共有しながら、担当者会で活用している。又口頭などで記録に残せなかったことや、新たな課題などについても検討し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時々ニーズに合わせ、職員の特徴とするところの柔軟な対応が出来ると思う。夕刻の時間であっても、帰宅願望の利用者には共に外に出て散歩をしたり、眠剤依存症の方には、日夜勤共同して、服薬の弊害を考慮して何年がかりで中止にしたり、職員一丸となり取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力や支えを受けて、ボランティアの訪問や、お茶会など開催している。又、地域のお祭りや、公民館での老人クラブの主催する体操やサロンなどにも参加し、楽しんでる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時を覗いては本人、家族の希望される、「かかりつけ医」に受診をされている。又、必要な方には月2回の居宅療養管理指導を受けて、近く診療所より往診も受けている。家族とも連携をとり、眼科、歯科や整形などの受診も同行したりさせていただいている。	基本的に、本人や家族が希望するかかりつけ医に受診している。協力医の往診も月2回あり、臨機応変に対応している。眼科、歯科、整形などの専門医への受診も職員が同行して支援しており、受診結果は記録に残し情報の共有を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の関わりの中で、捉えた情報や気づきを看護職員に伝え、又看護師自身も夜間の勤務に入り、直接観察できることもあり、適切な受診や健康管理、看護が受けられる様支援している。24時間何時でも連絡相談できる体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に当っては、利用者、家族の支援はもとより、主治医、相談員、看護師などと連携を密にし安心して治療に打ち込み、早期の退院ができる様、入院した利用者の支援も含め、家族の精神的負担の軽減にも、協力させてもらっている。家族と共に利用者の病態など、主治医より意見を聞くなど、又できるアドバイスはさせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平素より、家族の方には重度化したときの基本的な対処等について意向を確かめるようにしている。その時が来た際には終末期のあり方について、再度確認し、家族の希望に添って、主治医、職員全員で方針を検討するなど、チームで支援できる体制をとっている。	入居時に重度化や看取りについて説明し意思の確認をしている。その後は状態に応じて、本人・家族と話し合い、主治医や職員等と連携して、希望に沿った形で支援できるよう体制を整えている。保健師、看護師職員の配置もしており、24時間いつでも連絡できる体制を採っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に関しては事前に起こりうる症状など周知させ、対応の手順を決めている。事故発生時にも応急手当の方法、初期対応の手順などは定期的に訓練しており、病状の急変は、必要に応じて、看護師に連絡、相談をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いの消防署に依頼し、定期的にその時々の課題を持って消防訓練を行なっている。(夜間の火災発生や地震を想定した訓練など)地域住民にも訓練時の声かけをして協力、参加をお願いしている。又、代表者は地域の防災担当も引き受け、日頃から積極的に取り組んでいる。	消防署に依頼し、地域住民の参加協力を得て、年2回避難訓練を実施している。代表者が地域の防災担当を務め、防災訓練の一環として炊き出しもしていることから、職員全員の防災意識も高い。非常食は一週間分程度確保しており、消費期限の表示も分かりやすいように整理・整頓している。日頃から高い所に物を置かないように心掛け、窓ガラスには飛散防止用のフィルムを貼るなど災害対策に気を配っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重しながらその人にあった方法で対応している。部屋は個室でプライバシーは保たれているし、入浴、排泄、更衣などは1対1でさりげなく対応している。又職員会などで常に職員間で話し合っている。	利用者の人格の尊重やプライバシーの確保などについて、職員会の後で、テーマを決めて内部研修を行っている。入浴、排泄、更衣などの日常のケアの場面でも、利用者のプライバシーや人格を尊重した声かけや対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表現できるようにゆっくと包容力を持って上手く表現できるように働きかけている。「どうでしょう？どうしますか？」など本人の意思で答えられるように利用者本位で取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や排泄などを別とすれば、その日の過ごし方は利用者の望むように過ごすのが原則であり、入浴についてもある程度の制約はあっても、好きな時間に入れるように配慮しているし、できる限りは気ままに過ごせるような関わり方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目には着辛くなった下着や洋服などを整理し、必要に応じてその人に合った衣装を買ってきたり、美容院も出張で来られ、お化粧品、ネイルなどもサービスでして頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今のところ利用者全員が食事を楽しみにしており、それぞれの好みやアレルギー体質なども考慮して食事作りをしている。利用者は職員と共に調理の下ごしらえや、準備などそれぞれのレベルに合わせた役割を全うしている。又食事時は調理した物の話題も欠かさず、楽しく食事している。	食事の準備から後片付けまで、利用者の気持ちを大切にして、できる範囲内で職員と一緒に行うようにしている。食事の内容は利用者の嗜好に合ったものを選び、季節の物、朝採れの野菜なども多く取り入れ、家族のような雰囲気の中で皆で楽しんで食事ができるように努めている。食事や水分の摂取量はチェック表で把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、繊維性の食物などに十分に配慮して排泄の事も考慮している。水分に関しては1日の摂取量を定め、困難な方には代替食品で対応したりそれぞれの好みや状況に応じて水分チェック表に摂取量を記入し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の中には歯磨きや口腔ケアの習慣のない人も多く、毎食後は全員口腔ケアを行い、夕食後にはそれぞれの義歯等は洗浄剤に漬け込み職員が管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄自立はホームの目標でもあり、計画に沿ってDパンツを使用していた人は昼間は布パンツに移行し自立しているし、ポータブル利用者は、トイレ誘導により全員昼間のポータブルからの自立を目指し、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	職員は排泄チェック表で個々の利用者の排泄パターンや習慣を把握しており、昼間は全員トイレを使用している。一人ひとりの状態を常に見直すことにより、半数以上いた便秘薬服用者も現在は皆無となり、布パンツになった利用者も2名いるなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	以前は下剤服用者が何名かいたが、職員の働きがけで、利用者には事あるごとに説明、説得して徐々に服用回数を減らして、今は使用しなくても良くなってきているし、食事は繊維質のもの、野菜中心に徹している事もあり、体調不良を訴える事も殆どなくなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則は毎日入浴となっているが、拒否も多く、そのときは無理強いせず、その気になるまで待ってみたり、職員間でチームプレイで誰かが、タイミングよく、入浴にこぎつけたりとなく入浴は出来ているし、好きな方はゆっくりと入浴を楽しんでおられる。	毎日午後1時から入浴できるように支援している。入浴を拒否する利用者もいるが、チームプレーで声かけのタイミングや人を変えるなどの工夫を行い、できるだけ通常の入浴ができるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も特に決まりはなく、好きな時間に休めるようにしている。午後の時間帯の午睡や好きな時間に好きなことをして過ごされているのを、遠目で見守りしその人らしさを優先実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個人個人の服薬回数や効果効果について看護記録や受診記録に記載し、変更などのときは連絡ノートに記載し全員に周知させている服薬の都度、職員が手渡し確認しているし、症状に変化にはかなり気を使っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各個人の好み、得意とする事など、職員は把握しており、毎日好きなことをして過ごされている。特に調理の下ごしらえ等は得意で喜ばれるので、山菜等はそのままを買ってきて全員で下ごしらえをされている。縫い物、編み物好きなことをされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩など戸外に出る機会は多く、月1回は外食や外出の支援に努めているが、一人ひとりのその日の希望に添えないのが現状で、家族と相談して帰宅や、墓参り、外泊など可能な限り、外出の支援をしている。(機会があれば地域のボランティアの方に買い物の同行援助をお願いしたいと計画中です)	日常的な散歩は毎日短時間でも行うように心掛けており、月1回は外食に出かけ、季節ごとに家族の協力を得てドライブにも出かけている。おしゃれをして出かけるのを楽しみにしている利用者も多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に事業所のほうで管理しているが、毎月末には当月の収支を記した小遣い帳のコピーを家族に送っていて、来所された折にはノートに確認印をいただいている。買い物に出かけたときは支払いは本人が行なうし、自分で持っていたい利用者には、保管してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話ができるような体制であるが、希望も少なく、又電話のかかる事も少なく、直接来られて話すことが多い。携帯電話を持っている者は自由にかけているし、年賀状の作成や、手紙を書いて出す利用者も居られ、一緒に出かけ投函することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には何時も誰かが座っており、テーブルの上には季節の草花や雑誌、新聞など、好きなことができるように配慮している。利用者はテレビを見たり、好きなことをして過ごされている。又季節季節には、お雛様や5月飾り、毎月自分たちで作成した季節感あふれる作品を展示している。	玄関回りには季節の花をたくさん植え、居間にはピアノやソファを配置し利用者がくつろげるように工夫するとともに、写真、兜飾り、利用者が作った菖蒲の折り紙などで季節感を演出している。また、テーブルには可愛い花をさり気なく挿して家庭的な生活感を採り入れるなど、居心地の良い空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	手狭ではあるが、できるだけ配慮している。一人になりたいときは、自室で窓外を眺めたり、又仲の良い入居者同士で雑談したり、ソファで一緒にテレビを見たりくつろがれている。手芸の好きな方は食堂で人形作りや編み物など自由にされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好きなもの、大事にしている物など、好きに持ち込んで、自室を居心地の良い自宅にされている方も居られ、中には仏壇なども持ってきて毎日のお供えををして、勤行されている方も居られる。	利用者の居室には、各自が持参した使い慣れたタンスやいす等を配置し、好みに応じた写真やぬいぐるみなどで、画一的ではない個人の好みを活かした工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はもともとが住居として設計されたもので、廊下幅も狭く、両側の手すりや転倒の予防になっている。そのほか手すりはリハビリの支え棒としても使用しているし、2階には7室もの部屋があり、階段の昇降は毎日リハへと繋がっている。トイレの場所は矢印で誘導している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない